令和4年度 事業報告

令和4年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス禍の中、地域福祉推進の中核的機関として「互いに支え合い、安心して生活できる福祉のまち・篠栗づくり」を推進し、期待され、信頼される社会福祉協議会を目指し、次の3項目を重点目標に掲げて感染拡大防止対策を図りできる限りの事業を展開してまいりました。①安心して生活できる地域福祉の構築 ②栗の子保育園の運営 ③運営基盤の強化の3項目です。

・地域福祉構築の柱である「ふれあい・いきいきサロン」は、感染防止対策を実施し、高齢者の見守り、とじこもり防止、介護予防を目的に、福祉協力員を中心として、区長、民生委員・児童委員、ボランティアの方々の献身的な活動により、年間延べ161回、4,694人の参加がありました。また、今年度から本会で実施した「おひさま活動」も、町内7ヶ所年間延べ349回、4,547人の参加があり地域福祉活動を推進しました。子育て支援事業の「子育てサロン」、障がい者支援事業の「すまいるサロン」等は、三密の回避が難しく中止いたしました。

・ボランティア活動も、徐々に活動が再開されています。活動支援の一環となるボランティア養成講座についても、夏休み福祉体験教室、ささぐり元気アップ教室、認知症サポーター養成講座等再開し、地域を支えるボランティア活動の担い手育成に努めました。

・篠栗・久山ファミリーサポートセンターについても徐々に活動が再開され延べ407回の活動がありました。

・生活困窮者自立支援については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、生活福祉資金の利用が増加し、緊急的な食糧支援等も実施しました。

・栗の子保育園の運営については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に細心の注意を払い日々の保育を実施しました。

・運営基盤の柱となる会員制度と赤い羽根共同募金ですが、厳しい社会状況の中、各行政区の役員をはじめ関係の方々の精力的推進と町民の皆様の温かいご理解、ご協力により自主財源の確保を図ることができました。

・介護保険事業については、訪問型サービスAの生活援助を感染防止対策を行い実施しました。又、生活支援体制整備事業については、地域の福祉ニーズ調査や、地域福祉活動の担い手との交流、買い物支援等に取り組みました。

・収益事業の仏舎利殿管理運営事業については、秋の法要は中止いたしました。合祀墓と併せて、利用者が安心して利用できるよう整備、維持管理に努めました。葬祭事業については、葬祭(登録)業者との連携を密にし、利用者ニーズに沿った効率的運営に努めました。

【主な事業の報告】

1 地域福祉の充実

(1) ふれあい・いきいきサロン

- 延べ開催数 161回 延べ参加者4,694人
- 福祉協力員数(21行政区) 196人

(2) ボランティア活動

- 団体登録 6団体
個人登録 117人
延べ活動数 104回 延べ活動人数279人
- 夏休み福祉体験教室 受講者17人 講座3回
ささぐり元気アップ教室 受講者14人 講座4回
認知症サポーター養成講座 受講者 9人 講座1回

(3) 児童・少年福祉

- 福祉教育教材の配付 小学校3校 301冊
- 福祉文庫遊具の助成 認可保育園 3園
- 子ども育成会へ助成
- たのしい子育て講座 3回開催
- おやこひろば 10回開催
- 子育てサロン

ぐり'sママ

庄区サロン

乙犬区サロン

和田区サロン

田中区サロン

中止

- ぐりっこだよりの発行 年12回
- 篠栗・久山ファミリーサポートセンターの運営
提供会員 50人 依頼会員271人 両方会員36人
活動実績 407件
- 産後支援・家事援助に係わるホームヘルプサービス
利用者 月平均 2人

(4) 高齢者福祉

- 老人クラブへの助成(老人クラブ活動・空き缶回収作戦)
- マッサージ・鍼灸への助成 21人
- 独居高齢者乳酸飲料配付 378人
- ずっと安心スマイルライフ事業

相談 0件 契約(終結) 1件

- 家事援助に係わるホームヘルプサービス

利用者 月平均3人

(5) 障害者福祉

- 移送サービス 36件
- 身体障害者手帳1級所持者歳末助成 97人
- 療育手帳所持者歳末助成 95人
- 精神障害者保健福祉手帳所持者歳末助成 71人
- 身体障害者福祉協会へ助成
- すまいるサロン 中止
- ふれあいサデー 中止

(コロナ感染症対策で障害児者に配布のみ)

(6) 生活困窮者自立支援

- 生活福祉資金貸付

福祉資金 3件 緊急小口資金 22件 教育支援資金 9件

- 新型コロナウイルス感染症特例貸付

緊急小口資金 37件

総合支援資金 36件

- 困窮相談対応(食糧支援含む) 28件

(7) 一般福祉サービス

- 赤い羽根 地域でつながるお笑いステージ 来場者 約400名

- 心配ごと相談(毎月2回弁護士・司法書士・相談員)

- 福祉バスの運行

- 福祉用具の貸出

車イスの貸出 64台

ポータブルトイレ・介護用品等の貸出 17件

- チャイルドシートの貸出 13件

- 日常生活自立支援事業 6件

- 赤い羽根ふれあい食堂 } 中止

- ひとり親家庭支援 ふれあいバスハイク } 中止

- ひとり親家庭支援 フードサポート事業 開催4回

延べ223世帯

- 多世代交流まるごと 開催3回 子ども72人 大人49人

(8) 広報活動

- 広報紙「社協だより」の発行

年12回

- ホームページの拡充

2 運営基盤の強化

(1) 自主財源の確保

- 会員制度の推進 6,518件
- 共同募金運動の推進 10月～12月

(2) 組織運営の充実

- 理事会 4回開催
- 評議員会 3回開催

3 介護保険事業

(1) 訪問型サービスA

利用者 月平均 24人

- ホームヘルパーの研修による資質向上
- 利用者ニーズに沿ったサービス提供

(2) 生活支援体制整備事業

- 篠栗町生活支援・介護予防協議体
- 生活支援コーディネーター
 - ・城戸区のアンケート実施
 - ・買い物送迎支援の実施
 - ・移動販売の実施
 - ・地域の話し合いの場への参加や行政と地域課題の情報共有

4 収益事業の充実強化

(1) 仏舎利殿管理運営事業

- 秋の法要 中止 春の法要 実施

(2) 葬祭事業

葬儀件数 葬祭場葬儀 173件

栗の子保育園

1 園児数

0歳	12人	1歳	22人	2歳	22人
3歳	32人	4歳	35人	5歳	37人
合計160人					

2 年間行事

- 4月 入園式 進級式 内科検診 身体測定
- 5月 尿検査
- 6月 親子遠足中止 家族の日 地域のお年寄り・ボランティアとの交流
(園庭菜園)
- 7月 夏祭り プール遊び 中止
- 8月 自然体験学習川遊び(ひまわり組) プール遊び 中止
- 10月 運動会 内科検診 年長児社会体験学習(マリンワールド)

1 1月 ささりんピック(ひまわり組参加) 保育参観 5歳児のみ実施
地域のお年寄り・ボランティアとの交流(園庭菜園収穫)
給食試食会 園外保育(和田神社など) 保育ウィーク 中止

1 2月 生活発表会 クリスマス会
特別養護老人ホーム篠栗荘慰問(ひまわり組) 中止

1月 幼年消防クラブ出初式(ひまわり組参加) 見送り 歯科検診 尿検査
個人懇談

2月 節分 豆まき 観劇会中止

3月 ひな祭り お別れ会 卒園式 終了式

☆ 毎月 お楽しみ会 避難訓練

☆ 毎週 園庭開放 中止

3 特別保育

・障がい児保育 15人(要支援児含む)

・延長保育 月平均 7.4人 延べ 2,184人

※ 園舎の大規模修繕(平成13年建築 20年経過)

「令和4年度」

園舎

1階周りの外壁関係

設備

空調機4台更新

火災受信機更新

高圧ケーブル更新

当初契約額 17,819,687円

追加工事 設備・外壁・シーリング・高圧ケーブル・手摺・タイル等

必要額 2,233,000円

変更後契約額 20,052,687円

*地域つながり活動

電話、訪問、屋外活動、布マスク配布

Tシャツでエコバック作り

赤い羽根つながりマスクの作成

応援メッセージの伝達

*子育て支援

オンライン座談会 参加者 17組 5回

メッセージカードづくり

*ボランティア活動支援
演芸DVDの作成

今年度も、地域の協力により庄区・田中区・乙犬区・和田区の公民館で開催され親同士の交流や情報交換など成果を上げることができました。また、たのしい子育て講座では、子育てに関する講座の他、栗の子保育園にて、「先生と一緒に親子工作講座」を開催し、地域の子育て支援にも取り組みました。

・障がい者支援事業の「障がい者サロン」につきましても、すまいるサロン、ふれあいサタデーに加え、すまいるサロンコンサートを実施し障がい者（児）の余暇活動の場、家族の介護負担の軽減や介護者同士の交流の場として成果を上げることができました。

・ボランティア活動は、センターの登録者が459人となり、様々なニーズに対応でき、活動の輪が着実に広がりを見せています。活動支援の一環となるボランティア養成講座については、夏休み福祉体験教室、送迎ボランティア講座、認知症サポーター養成講座等、多岐に亘る講座を取り入れ、地域を支えるボランティア活動の担い手育成に努めました。

・一般福祉サービス事業では、赤い羽根共同募金を財源として「赤い羽根ふれあい食堂」を開催し、子育て中の家族から高齢者まで120人の参加がありました。

・運営基盤の柱となる会員制度と赤い羽根共同募金ですが、厳しい社会状況の中、各行政区の役員をはじめ関係の方々の精力的推進と町民の皆様の温かいご理解、ご協力により自主財源の確保を図ることができました。

・介護保険事業については、訪問型サービスAの生活援助を実施しました。又、生活支援体制整備事業協議体を行政と連携しながら取り組み、新しい介護予防・日常生活支援総合事業の推進に努めました。

・収益事業の充実といたしまして、衣裳貸出事業については、イベント時やホームページでPRを致しました。

仏舍利殿管理運営事業については、合祀墓と併せて、利用者が安心して

利用できるよう整備、維持管理に努めました。

葬祭事業については、葬祭(登録)業者との連携を密にし、利用者ニーズに沿った効率的運営に努めました。